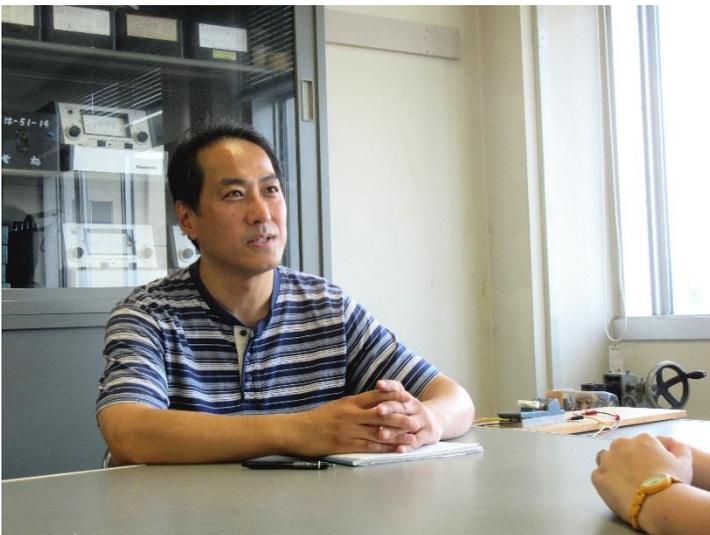


THE KITAKAMI TIMES

国際リニアコライダーの英語広報誌（日本語要約版）

12/5～9 ILCの国際会議(LCWS)盛岡で開催！！ ～実行委員長の岩手大学 成田晋也教授にインタビュー～

岩手県 和山アマンダ



岩手大学工学部 成田晋也教授

はじめに

ILCの国際会議 LCWS（リニアコライダーワークショップ）は、毎年開催され、研究者が ILC を含め高エネルギーの電子・陽電子を衝突する直線型加速器計画を話し合う国際会議です。今回の LCWS は、ILC の建設候補地である北上山地に近い盛岡市で開催されます。

前回の KITAKAMI TIMES で、盛岡市内の紹介をしましたが、今回は LCWS について地元の実行委員長である岩手大学の成田晋也教授に話を聞きました。※インタビューの一部を抜粋して、ご紹介します。

自己紹介

成田晋也です。LCWS2016 のローカルコミティのチェアです。今は岩手大学工学部の物理材料理工学科で、専門は素粒子物理学です（ILC と同じです）。大学生の頃からずっとそれをテーマとしています。

LCWS の概要について

「リニアコライダーワークショップ」とは、ILC を含めリニアコライダーに関する世界で最も大きな国際学会です。アジア、ヨーロッパ、北米の持ち回りで開催し、今回はアジアでの開催です。今回は岩手県が ILC の建設候補地になっていることもあり、盛岡市を会場として LCWS が開催されることとなりました。世界中から約 300 人の研究者が集まることを期待しています。物理、加速器、測定器など、それぞれの立場・専門で、リニアコライダーに携わっている人が参加します。

LCWS を通じて、成し遂げたいこと

LCWS では世界中の研究者が集まり、岩手を紹介するチャンスなので、岩手県や盛岡市、岩手国際リニアコライダー推進協議会が様々な企画を検討しています。私はローカルコミティのチェアですが、地元が企画しているイベントにも協力して研究者に岩手を知ってもらいたいと考えています。例えば、歓迎レセプションでは、岩手大学と岩手県立大学のさんさ踊りのチームの披露といったことも考えています。



LCWS2016・リニアコライダーワークショップ

LCWS では研究者が最新の研究についてお互い議論することが最も重要です。また、岩手県国際リニアコライダー推進協議会で県民集会在が企画されていると聞いており、我々研究者側もいろんな形でサポートできればと思います。また、岩手日報は CERN を見学した中学生の報告会を考えているようです。本当は、生徒に会場係など協力してもらえれば良いですが、平日は学校がありますので、対応が難しいと思います。地元の人にも、いろいろこの機会に ILC に興味を持って、一般の県民イベント等にも参加していただき、ILC を知る機会にしてもらいたいと思います。

ILC 関連産業への参入に向けて地域の企業と交流するイベントについて教えてください。

まずは、企業展示という形で、岩手の高い技術を紹介することを考えています。そして、まだ実際にできるかわかりませんが、企業側が技術紹介を実際にプレゼンし、海外の研究者にできれば参加してもらいます。あるいは逆に、岩手の企業が参加して、研究者から ILC ではこういう技術が必要とされていると伝えるようなセッションができれば良いと思っています。これから検討していきます。

12月の岩手・盛岡を楽しむこと

最終日の午後に ILC サイトへのエクスカージョン（視察）を考えています。ただ、盛岡から行くので時間がかかり、夕方 4 時頃には暗くなるため、内容の調整が必要です。また、研究者がパートナーや家族と一緒に盛岡に来ると思うので、岩手県や盛岡市で会議期間中に観光案内・紹介ブースを設けることも考えています。12月には、スキーは早いかもしれませんが、温泉に行き楽しんでもらえたらと思います。

LCWS は市の中心部で開催されるので、研究者は『でんでんむし』に乗り（英語の路線図もあります！）盛岡を散策することができます。受付に英語の観光パンフレットなどを置ければと思います。

ILC の決定へ向けた国への働き掛けは？

国内外から多くの人が集まり、会議を成功させるということ自体が国へのアピールになると思います。世界中の研究者がこんな一生懸命 ILC をやっているという様子を示すことが非常に重要だと思います。情報をどんどん発信して、多くの人目に触れて、東北の人だけでなく、日本全国の方々も ILC を理解するきっかけになれば良いと思います。それが政府の後押しにもなると思います。

県内在住の外国人、日本在住外国人の協力を

会議は、大学・研究者が対応する形になりますが、県内在住の外国人の方々には、駅や市の案内などをやっていただければ本当に助かります。駅周辺会場までの案内板作成もよいですね。地元企業の展示会の際に、通訳がいた方が絶対良いと思います。通訳費用がかかると、企業が参加しにくくなると思うので、ボランティアでやっていただければ良いと思います。ぜひご協力を！

世界の研究者へ向けてメッセージを

ぜひ盛岡にお越しください！来てもらうと、岩手の良さが分かります。ILC 計画が正式に決まると、自分がここに来て、研究するんだと、イメージを持ってもらうと非常に良いチャンスだと思います。盛岡市の大きさや、一関、奥州では、10万人の人が生活していること、インフラが整っていることが見られます。そういった本当の生活を見ていただくことで、自分も岩手に住むイメージが湧くのではないかと思います。

アマンダからの一言

成田先生から、私も盛岡への思いを伝えるよう依頼されました。実は、ここに住むことになるまで、「岩手」というところを聞いたことはありませんでしたが、着いた途端に魅力を感じ、大好きになりました。東京や京都より静かでリラックスできる場所で、長い歴史とたくさんの魅力がここにはあります。私の家族や外国人の友人が、「日本の名所はもちろん良いところだが、素敵な盛岡が一番好き」とみんな話しています。

12月に、世界の研究者の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています！



ILCの研究者らが一関で夏合宿

一関市 ネイト・ヒル

7月23～26日にかけて、一関市内にある温泉旅館で「加速器・物理合同 ILC 夏の合宿 2,016」が開催されました。2010年から毎年開かれ、国内の加速器研究者、素粒子・高エネルギー物理学者の間で情報共有を行い、ILCについての共通認識を図ること、異分野の研究者同士の信頼関係を築き、若手研究者間の交流を促すことを目的に開催され、ILCの実現、そして素粒子物理学の発展を目指すものです。

夏合宿が行われた旅館は一関市街地から西へ車で約20分の距離にあり、近くにはエメラルドグリーンの溪流が流れる巖美溪があります。周辺のお店の前では ILC のぼり旗が見られ、「空を飛ぶだんご」のかごにも ILC のミニのぼり旗が付けられていました。

国内の研究者や物理学者のほか、大学の博士研究員、大学院生約70人が参加しました。初日は加速器や重力波、ILCの戦略などをテーマに報告が行われました。

2日目は岩手県立大学の鈴木厚人学長が「ILCに対する地方の取組」のほか、高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県つくば市)の取組、超伝導加速空洞、ヒッグズ粒子、ニュートリノ振動などについても報告しました。

午後には市街地にある一関図書館で、中高生と研究者との交流会が開催されました。「研究者への道」をテーマに講演した広島大学の栗木雅夫教授は、「成績が良い人が研究者に向いているとは限

らない。公式を覚える人より、公式の仕組みを理解しようとする人が研究者に向いていると思う。」と述べ、「教科書に書いてあることを覚えるのではなく、理解することが研究者への第一歩だと思う」と語りかけていました。

3日目は物理、測定器などをテーマに報告が行われ、そして最終日の4日目には東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構初代機構長でもあり、リアコライダー・コラボレーションの副ディレクターでもある村山斉氏による講義「ILCに求められている事」が行われました。

その後、希望者約20人がバスで ILC 建設候補地の一関市大東町を視察しました。現地では、緑の山々や田んぼに囲まれた田園風景や地元の子供たちが作成した ILC の看板を見学しました。

ILC 夏合宿組織委員会の岩手大学の成田晋也教授は、「ILC 夏の合宿は ILC に関わる物理・測定器・加速器の研究者が最新の研究状況について情報共有を行うこと、特に若手研究者間の交流を進めることを目的に2010年から毎年行われています。今年、ILCの建設候補地である岩手を会場として地元自治体の方の多大なるご支援をいただき、非常に有意義な会となりました。今回の参加者は、地元の ILC に対する熱い思いを感じながら、是非とも日本で ILC を実現し、自分達の目指す“宇宙の謎”、“物質の根源”を解明したいという思いあらためて強くしたようです。みなさまには、引き続き ILC 実現のためにご支援・ご協力よろしくお願ひいたします」とのコメントをいただきました。



ILC建設候補地 一関市大東町を視察

気仙沼で珍味、酒、自転車と海を満喫

奥州市 アンナ・トマス



ILC 建設候補地 宮城県気仙沼市

ILC の建設候補地は3つの市をまたがっています：岩手県の奥州市・一関市、宮城県の気仙沼市。もし ILC の研究者が内陸に住むとしたら、家族と気仙沼市の海に行くかもしれません。また、気仙沼市に住むかもしれません。

普段、私の記事は奥州市を取り上げていますが、この記事では海鮮料理や珍味、地酒を含め初めての気仙沼への旅を紹介します。

気仙沼への旅

一関駅から大船渡線の電車に乗り、気仙沼駅までのんびりした一時間半を過ごしました。気仙沼駅に到着して駅前の観光案内所に行き、レンタルサイクルを入手。気仙沼は傾斜が多いので普通の自転車に加え、電動自転車を貸し出しています。

自転車で、海に面している温泉へ行き荷物を預けると、お昼に加えて珍味その1の時間でした。お昼にカツオ、ホタテとイクラの海鮮丼と珍味度をアップするため、「もうかの星」を注文。もうかの星とは、ネズミザメの心臓のことで刺身として酸味のあるたれと一緒に出てきました。食感はやわらかいようで、味は意外とまろやかでした。

温泉で一風呂を浴びた後、近くの「海の市」に行きました。施設内には、レストラン、(日本唯一の!) シャークミュージアム、観光案内所や店などが入っています。1階の店では試食が多いので、ここで珍味その2にチャレンジ。

夕食では、日本酒を飲むためレンタルサイクルを海の市の観光案内所に返し、ILC を担当する気仙沼市震災復興・企画課の阿部さんと待ち合わせ、一緒にお店で夕御飯を食べました。その中に珍味その3がありました。気仙沼には蔵元が2社あり、両社のお酒を飲んでみました。

男山本店から「蒼天伝(そうてんでん)」を、角星から「水鳥記(みずとりき)第一章」とゆず酒を飲みました。いずれも美味しかったです。

ホヤ：気仙沼マスコット「ホヤぼーや」がこのホヤ。「海のパイナップル」と呼ばれることもありますが、味はパイナップルにまったく無関係で、形はそこそこパイナップルっぽいです。ホヤの味は、「複雑」としか言いようがない：ほんのり酸っぱい、ほんのり苦い、ほんのり不明。食べるなら新鮮なものがおすすめです。ホヤを一口食べてから酒を飲むと酒が甘くなると阿部さんが教えてくれました。

次の日、フェリーで大島まで行き、電動自転車で島を回り、小田の浜で海水浴し日焼けしました。ILC 建設候補地を訪れる際は、東北の珍味と酒を満喫し、気仙沼にも遊びに来てください。



夏祭りコーナー



岩手県 和山アマンダ、奥州市 アンナ・トマス、一関市 ネイト・ヒル

—また一年が経ち、また夏が終わる—

日本の夏は暑くて蒸し暑いですが、家族とコミュニティを中心に様々なイベントもあります。その多くは「夏祭り」で、8月のお盆休みを中心に開かれます。お盆とは、儀式やお墓参りなどで、亡くなった親戚に敬意を表す日本の祝日です。また、お盆には、何百年以上も前から伝承してきた儀式や踊りを行う時期です。

そういった理由もあり、私たちは夏が好きです。長い歴史を持つ伝統に囲まれ、どこへ行っても太鼓の音頭や人の声が聞こえてきます。この夏の思い出をシェアします。実は、地域の夏祭りでも ILC の情報発信をしました！

さんさ踊り【盛岡市】

さんさ踊り。鈴、笛、何千個の和太鼓。盛岡市では世界最大の太鼓パレード「さんさ踊り」が、毎年8月1日～4日に開催されます。岩手県科学 ILC 推進室が今年もまた ILC の太鼓チームを形成し、写真のとおり大きな横断幕を持ち行進しました。

その後ろには、今年パフォーマンス賞を受賞した岩手県庁職員チームがいます。

水沢商人祭り【奥州市】

6月12日に奥州市水沢区で開催された商人祭りでは、ILC サポート委員会の会員と奥州市国際交流協会が ILC ブースを出展しました。前回と同じ、主な出品はフランクフルトを ILC に見立てた「国際リニアコウインナー」。親子がヒッグス粒子マスコット「ヒッグス君」に引かれて、ILC クイズに挑戦しました。

一関夏祭り【一関市】

8月上旬は、一関市 ILC 推進課の職員が市役所チームの一員として一関夏まつりのパレードに参加し、先頭で ILC 横断幕を持ち、ILC うちわを配付して PR しました。子供七夕神輿（みこし）では、昨年に続き ILC をテーマにした神輿が登場しましたが、今年の神輿はオリンピックの応援も付け加えられていました。

さんさ踊りでの ILC パレード【盛岡市】





ざつつあか祭り【奥州市】

ざつつあか祭り【奥州市】

祭りは楽しみながら地域社会に参加する機会の一つです。毎年8月に奥州市水沢区で行われるざつつあか祭りで奥州市国際交流協会の多国籍チームと一緒に踊ってみませんか？

いちのせき市民フェスタ【一関市】

8月下旬には、「いちのせき市民フェスタ16」が開かれ、一関市 ILC 推進課がブースを設置しました。市が作成した ILC の Tシャツを着た市内在住の外国人と、ブースを訪れた人々と交流し、ILC を PR しました。

岩手銀河フェスタ【奥州市】

8月20日に国立天文台水沢V L B I 観測所と宇宙遊学館で開催された大人気の岩手銀河

フェスタでは、沢山の親子が楽しみながら科学・宇宙について学びました。ILC コーナーには、木材の模型、奥州市が製作した ILC ステッカーや ILC 関連イベントの案内が提示されました。

全国地ビールフェスティバル in いちのせき【一関市】

8月中旬は、「全国地ビールフェスティバル in 一関」が開催され、3日間にわたって全国40都道府県とドイツ、ベルギーからの計81社が地ビール200超の銘柄を提供しました。多くの国内 ILC 関係者も会場を訪れ、地ビールや地元の食材を使った料理を満喫していました。この会場でも ILC うちわを沢山配りました。



THE KITAKAMI TIMES ・ ILC の英語版広報誌 第23号

発行：岩手県国際リニアコライダー推進協議会

TEL：019-624-5880 FAX：019-654-1588

協力：岩手県、奥州市、一関市、ILC サポート委員会など

<http://www.iwate-ilc.jp>

